

展覧会と実践

Living as Technique: Stone, Trees, Soil

生きるという〈わざ〉

石・木・土

石橋友也

井上佑吉

杉浦今日子

武山弥央

フロリアン・ガデン

吉本梓

生きることは〈わざ〉である。生き延びるのではない。生命の技術とは、世界のなかでつきつきと死にゆくことである。地上の木々は酸素環境を作り、動物たちを養う。彼らは死して腐敗し、微生物を養って土になる。岩石は惑星の体をなし、時間をかけてあらゆる生命と混じる。私たちは土である。木によって息吹き、悠久の時を経て石となる。石はつかの間の生を内包し、私たちはいつもその中に還る。本展覧会は、異なる素材を媒介として領域横断的なテーマを掲げる作家の表現に焦点を当てる。視覚文化に関する新しい挑戦として、見えない物語を可視化し、多感覚的な経験を創出することで、生命論・エコロジー美学・技術哲学の交差から芸術実践を拡張する。これは展覧会ではない。感性のマニフェストである。

芸術は感性のマニフェストである。



フロリアン・ガデン《水路づけられた河川の生活環境》(2026)

2026年9月5日(土)―9月27日(日) 11:00―17:00 | 入場無料

会場: OKBギャラリーおおがき 月曜-水曜休み(9月21日-23日(祝)は開館)

岐阜県大垣市高屋町1丁目59番地、OKB大垣共立銀行大垣駅前支店西隣



お子様も参加できる関連イベント(無料・予約不要)が
多数開催されます。詳しくは裏面・ウェブをご覧ください
各種情報、ウェブサイトはこちら



公益財団法人
きょうと視覚文化振興財団
Kyoto Foundation for Visual Culture



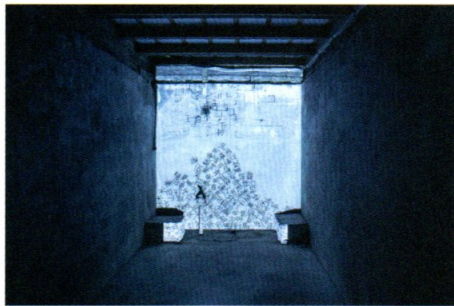
情報科学芸術大学院大学
Institute of Advanced Media Arts and Sciences

企画 大久保美紀 Miki OKUBO

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 准教授。企画展に「遍在、不死、メタモルフォーゼ」(京都、2024)、「蘭／COCOON 技術から思考するエコロジー」(岐阜、2025)、「石に話すことを教える」(京都、2025) ほか。責任編集に『蘭の記号論』(新曜社、2026)、主著に『Exposition de soi a l'epoque mobile/liquide』(Connaissances et Savoirs, 2017)。

主催 | art-sensibilisation

助成 | きょうと視覚文化振興財団、日本芸術文化振興会、朝日新聞文化財団
協力 | 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]



石橋友也+新倉健人+吉田竜二《パベルのランドスケープ》(2025)

石橋友也 Tomoya ISHIBASHI

生物学を学び、品種改良種、河川、文字、人工能に関する芸術実践を行う。早稲田大学生命美学プラットフォーム「metaPhorest」所属。近年の参加展に「センシング・ストリームズ〜生きものとともに」(東京日仏学院、2025)、「蔦／COCOON:技術から思考するエコロジー」(岐阜県美術館、2025)など。



武山弥央《ambient friendと過ごしてみる。~☆DJ party☆~》(2026)

武山弥央 Mio TAKEYAMA

2020年岐阜大学大学院 物質・ものづくり工学専攻修了。電子部品メーカーで勤務後、現在IAMAS修士2年。架空の生命体《ambient friend》を媒介に人と環境との関係を問い直すメディア芸術実践を展開。DJ・ライブ活動も実践し、場で生まれる関係性を探究する。



井上佑吉《Une et mille têtes》(2011)

井上佑吉 Yukichi INOUE

1942年生まれ、1966年渡仏。石と向き合い、真正性、記憶する義務、謙虚さを追求する。パリ・サロン・ド・メでクーベルタン財団賞(2001、2011)シモーネ&チノ・デル・ドゥーカ財団彫刻賞(2014)など受賞多数。2011年以来、沖縄の石を素材に《Mille et une têtes》に取り組む。



フロリアン・ガデン《モクスガニ優先》(2024)

フロリアン・ガデン Florian GADENNE

ミクロ・マクロの観点を行き来し、日常を見つめる詩的な視点で人間中心主義的なエコロジーを批判する。PARIS ARTISTES入選(2015)、Art Award In the CUBE 2023入選(2023)、500m美術館賞グランプリ賞(2023)、第27回岡本太郎現代美術賞特別賞(2024)。



杉浦今日子《Parallel World II》(2017)

杉浦今日子 Kyoko SUGIURA

刺繍を中心とした工芸の技法による造形作家。2009年よりパリを拠点に創作活動を展開。主な展覧会に「Symbiose」(パリ、2017)、「HOMO FABER」(ヴェネツィア、2024)など。技術と素材を読み解き、ヨーロッパ刺繍技術の系譜を研究する。2025年より京都拠点。



吉本梓《大縄》(2026)

吉本梓 Azusa YOSHIMOTO

IAMAS25期生。沖縄にて自生植物の利用や民具制作の調査を継続してきた。現在は、縄を縛うという身体的・反復的行為に着目し、植物との関係性から「自然とは何か」を問い直す芸術実践を行う。

関連イベント 無料・予約不要(お子様も参加できます)

作家によるワークショップやトークなど、どなたでも参加可能です。当日会場にお越しください。

① 9/5(土)・9/22(火)・9/27(日) 16:00-17:00

武山弥央「ambient friendと過ごしてみる。~☆DJ party☆~」

ambient friend(通称「フレンズ」)は、地球資源を使って遊ぶことが大好きな架空の生命体。家電製品に触れると音を発します。フレンズと一緒にいると、私たちとモノは新しい関係を築くかもしれません。

※9/5・9/27はDJとしてのライブ、9/22は作家パフォーマンスです。

② 9/6(日)・9/26(土) 13:00-14:30

石橋友也「身近な「穴」から水の世界を覗く」

5円玉、ボタン、ワッシャーなど、身近にある「穴」を持ち寄って「水レンズ」という原始的なルーペを制作し、会場の近くを流れる水門川の微視的な世界を観察してみましょう。顕微鏡の歴史や技術についてもお話しします。 ※小学四年生以上対象

【持ち物】身近な直径3〜10mm程度の「穴」をお持ちください。

③ 9/6(日)・9/23(水) 15:00-17:00

吉本梓「縄を縛うこと」

縄を縛うことは、身体によって対象や環境にตอบสนองする営みです。ワークショップでは、植物の匂いや手のひらと繊維の摩擦を体験し、人と自然との関係性を結び直します。



イベントに関するお問い合わせは
大久保美紀(mk_@iamas.ac.jp)まで。

④ 9/12(土) 15:00-16:30

フロリアン・ガデン「Ensemble vers un retour à la terre (ともに土へ還るために)」

高齢化や食料自給率の低下を背景に日本の農業は転換点を迎え、都市生活は私たちを環境から疎外しています。手作りの種団子(シードボール)を手にギャラリーを飛び出し、身近な風景を見つめ直し、食や自然と地域を結び直す新たな環境のあり方について考えましょう。

⑤ 9/13(日)・9/27(土) 13:30-15:00

杉浦今日子「糸から作る紐」

私たちは日々衣服を通じて糸に触れています。糸は約五万年前に生み出された最古の技術の一つです。糸について学び、糸を撚り合わせて一本の紐を作りましょう。お子様にも気軽に参加いただけるワークショップです。

※制作時間は10分程度。開催時間中自由に参加できます。

トーク・レクチャー

⑥ 9/26(土) 15:30-16:30

キュレータによるレクチャー「生きるという〈わざ〉」

展覧会のキュレータ・大久保美紀が本企画のコンセプトを語ります。近代技術をも生命に内在する〈わざ〉と捉える視点は、岩石・植物・土壌をつなぎます。素材を媒介(メディア)に領域横断的なアプローチを試みるエコロジカルな芸術実践のポテンシャルについてお話しします。

イベントカレンダー

5(土) OPENING ①16:00-

6(日) ②13:00- ③15:00-

12(土) ④15:00-

13(日) ⑤13:30-

22(火) ①16:00-

23(水) ③15:00-

26(土) ②13:00- ⑥15:30-

27(日) CLOSING ⑤13:30- ⑦15:00- ①16:00-

入館可能時間: 9月5日(土)〜27日(日) 木曜〜日曜11:00〜17:00
月曜〜水曜休み(9月21日〜23日は閉館)

⑦ 9/27(日) 15:00-16:00 杉浦今日子トーク

「糸を撚る——最古の〈わざ〉」

聞き手 大久保美紀(本展キュレータ)

糸は人類最古の技術の一つ、「撚る」ことで作られています。世界の刺繍を研究しながら糸の表現を追求してきた杉浦今日子による糸の歴史と魅力をひも解くレクチャーです。